

TOPICS

応用バイオ科学科

FACULTY OF APPLIED BIOSCIENCE APPLIED BIOSCIENCE

海外バイオ研修Ⅱ現地報告

現在、米国シアトルに3名、台湾に1名の学生が6ヶ月間の海外留学をしています。現地の学生から送られてきた声をお届けします。

3年 又木勇樹さん

気付けば1ヶ月以上が経ち、だんだん学校にも慣れてきました。最初のうちは、先生の言っていることが聞き取れませんが、次第に聞き取れるようになり、どうにか授業についていくことができています。友達との会話も当然英語なので、自分の気持ちををはっきりと伝えられず悔しく思いますが、会話により、日々学んでいます。これからも日本との教育の違いなどを感じながら頑張っていくと思っています。



3年 後藤要平さん

シアトルに来て2ヶ月が経ち、ネイティブをはじめ、コンゴ、中国、ベトナムなどにも多くのユニークな友人ができました。また目標も変わり、英語が話せるようになりたいから、英語が使えるようになって何がしたいかを考えるようになりました。友人の多くは、何かに特化しており、自分が普通すぎて焦りを感じます。この環境を使い、英語以外にも多くのことを学び経験を積みたいと思います。



3年 田中麻衣さん

日本と違うところがたくさんあるため、最初は戸惑ってばかりでしたが、シアトルに来て2ヶ月が経ち、ようやく生活にも慣れてきました。最近、同じクラスの人たちと仲良くなり、その人たちの国の話を聞いたりするのが楽しいです。時々日本が恋しくなりますが、シアトルに来たことで日本の良いところに気付けたので良い経験だなと思っています。あと4ヶ月楽しみたいです!!



3年 栗原健さん

学内の留学生の人たちと仲良くなったことがきっかけで、海外に興味を持ち、現在台湾に留学しています。中国大陸の中国語は漢字が簡略化されますが、台湾の中国語は昔の日本で使われていた漢字を使いますので、新聞・テレビの字幕は漢字を見ればなんとなく理解できます。一方会話に関しては、ゆっくり話してもらるか、英語で話してもらうことによりコミュニケーションをとっています。



第5回B科・高等学校自然科学部合同発表会開催

今年度も高校理科部との合同発表会を10月9日に行いました。県立鎌倉高等学校の生徒さんは、この夏、本学科で実施した「分析化学」と「遺伝子実験」の結果を、県立弥栄高等学校の生徒さんは、学会発表も行った「環境調査」の結果を発表しました。一方本学科は、3年生の岩岡史さん、老野克紀さん、大島佑貴さん、武蔵朱里さんが「自主テーマ実験Ⅱ」で取り組んだ内容を、1年生の蛸名将義さんは高校の時にに行った植物の研究に関して発表しました。いずれも完成度が高く、大学生、高校生が質問をし合う活気のある発表会となりました。発表会の後の表彰式・懇親会では、他校の様子を聞くなど、通常では経験できない貴重な時間を過ごしていました。



ホームカミングデー盛大に

11月6日、7日の両日、学園祭&ホームカミングデーが開催されました。岡部研究室では、上は81歳から(本間輝武名誉教授がリュックサックを肩にお元気で参加)、下は1歳(卒業生のご子息)まで、総勢30名を超えるOB、OGが古巣に集結し、1年振りに楽しいひとときを持ちました。名古屋から遠路駆けつけた卒業生いわく、「岡部先生／OB／OGの元気なお顔とひとときの学生気分を味わいに今年も来ました。」。

他の研究室でも多くの卒業生が集まり、遅くまで大いに盛り上がりました。



岡部研究室に集結した面々です

バイオ技術者認定試験に145名が挑戦!

本学科では「バイオ技術者」の認定試験を推奨しています。これに挑戦する学生は年々増え、12月23日に本学で実施された試験では、上級に35名、中級に110名の学生が名乗りをあげました。晴れて「バイオ技術者」の栄冠を手に入れた諸君は、これを励みにさらに上を目指しましょう。また、惜しくも残念だった諸君はリベンジを期待しています。1年生の諸君は、中級の受験準備を始めて下さい。教員一同応援しています。

様々な行事で活躍するバイオフィAMILYー学会でのアルバイトー

9月2日から3日に本学で電気化学会が、9月28日から29日には東京で防菌防黴学会が開催されました。両方の学会で、会場設営から受付、発表会場の照明やタイムキーパーなど多岐にわたる仕事を本学科の4年生、修士の学生が分担して立派にこなしました。その働きぶりはいずれの学会でも評判で、頼もしく感じられるとともに、普段のTAやオープンキャンパスでの手伝いが人間性に厚みを持たせているのだと思いました。今後の活躍も期待しています!

岡部教授「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催

科学研究費補助金による研究成果の社会還元事業の1つで、大学の先端研究を、高校生が直接見て聞いて触れることを通し、「科学のひらめき☆ときめき」を体験してもらうイベント(日本学術振興会主催)が、10月16日に開催されました。県立鎌倉高等学校、県立弥栄高等学校、私立栄北高等学校(埼玉県)の生徒さん20名が参加し、清水准教授の指導のもとで、「pH応答機能をもつゲル粒子」を各自が作り、粒子の色が溶液のpHを変えると激変する様子に皆驚嘆していました。最後に、参加した高校生全員に、岡部教授から「未来博士号」が授与されました。



幾徳祭

今年度も本学科では「利き酒(発酵を通して楽しみながら本学科を知ってもらいイベント)」を行いました。以下は、まとめ役の3年生佐々木亜由美さんからのメッセージです。

貴重な体験に感謝します!

3年 佐々木亜由美

今回の学園祭でも無事に利き酒処「混民」が終了しました。多くのお客さん(2日間で800名を超える来場者)が来てくれて、利き酒や甘酒を楽しんでいたのでもったいです。企画準備は本当に大変でしたが、この2日間は楽しくあっという間でした。きっともう学生生活では感じられない貴重な体験だったと思います。企画に関わってくれた先生方、先輩方、利き酒メンバー全ての方に感謝します。

また、「夢の実現プロジェクト」に採択されている「蛍プロジェクト」の成果発表もKAIT工房で行われました。蛍を幼虫から育てて成虫にするまでの過程を、3年生の石川康治さんと2年生の久保田光さんが中心となって、ポスターや蛍の水槽を展示してわかりやすく説明していました。蛍の輝きも、土日に大学へ来て水の交換やエサやりなどを行っている彼らの日ごろの努力の上に成り立っているのです。これからもがんばってください。いつの日か、厚木に蛍を!



浴衣やオリジナルハットを着てお疲れさまでした



発表ポスターの前で発表するプロジェクトメンバー: 芝岡佑貴さん(2年)